

令和6年度 浜松市立西都台小学校 学校評価報告書

1 自己評価

自己評価結果、考察

- ・学校評価アンケート及び別紙①（学校からの分析）のとおり

改善方策

- ・別紙②（令和7年度教育課程ダイジェスト）のとおり

2 学校関係者評価

12月11日（水）、2月19日（水）に開催した学校関係者評価委員会（学校運営協議会）において、学校より自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告。委員からは以下のような意見があった。

<12月11日（水）>自己評価結果、考察に対する意見

（成果）

- ・子供たちが自分たちで計画・運営する機会（運動会や学年・委員会イベント等）を充実させ、支援していくことで、子供たちに主体性が出てきた。
- ・子供たちに充実感や成長の実感があり、前向きな行動の表れであると感じる。
- ・「心理的安全性」をキーワードに職員が子供や保護者と向き合うことで、浸透が見られた。先生に気軽に相談できる環境がある。
- ・生活科や総合的な学習の時間の支援をはじめ、交通安全ボランティア、読み聞かせボランティア等、学校運営協議会（CS）や地域との協力体制が強い。

（課題）

- ・学校全体では学校が楽しいという評価が多いが、「学校生活が楽しくない」という児童の理由を把握し、改善していきたい。
- ・授業改善や個別最適な学びの実現に向け、ICTをより活用していく必要がある。
- ・学校教育目標の周知が足りず、認識度をもっと高めたい。
- ・諸調査（全国学力学習状況調査や県・市学力調査等）において本校は高い学力が確認されているが、更なる学習の充実のために、家庭学習も含めた学習の在り方を考えたい。

<2月19日（水）>改善方策に対する意見

- ・やる気、集中力、自立、コミュニケーション能力などの点数化が難しい心の部分（非認知能力）が大切である。学校運営基本方針はこの非認知能力に力を入れたもので、学校がよくなっていくと感じた。しかし、認知能力である学力あつてのことなので、学力も大切にしてほしい。
- ・長期休業中の家庭学習について、ドリル以外を自分で選択することになると、やらなくなってしまうのではないか。中学校で全教科宿題があるので、急に宿題が増えてつまづかないか心配である。
- ・「発達支援教室」の位置付けが分かりにくい。また、安心するような呼び名を付けてほしい。
- ・なわとびやマラソン、タイピングアプリ、漢字の復習など、達成感が感じられるような仕掛けがほしい。

・令和6年度のいじめについての報告や令和7年4月改定予定のいじめ防止基本方針については、理解を得られた。

3 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図る。

- ①長期休業中の課題の在り方の見直しを図る。
 - 計画表の作成においても学校で児童に寄り添い、支援をしていくことで、宿題のやらされている感覚をなくし、自主的に取り組めるように支援していきたい。
 - 長期休業前の三者面談等を活用し、休業中に頑張るとよいことについても、児童・家庭・学校で共有していくようにする。
 - 長期休業中以外においても、ICTの活用等により個別最適な学びの推進を図り、確かな学力を保障していく。
- ②「発達支援教室」が安心して親しみやすく、どの子ども取りこぼさない教育につながる場となるようにする。
 - 「発達支援学級＝なかよし学級」のように温かく親しみやすい名称をつける。（現在、「発達支援学級＝たけのこ教室」にする方向で調整中である。）
 - 学校運営協議会において、「発達支援教室」の位置付けが伝わりにくいとの指摘を受け、本校の従来の発達支援教育（「発達支援学級（なかよし）」「通級指導教室」「取り出し指導・入り込み指導」）を含めた説明を丁寧に行い、必要な児童が適切な支援を受けられるようにする。
 - 特にどのような時、どのように受け入れていくのか、子供や保護者に明確に示していく。
 - 発達支援教室には、午前基本発達支援担当の支援員が常駐し、午後は学校運営協議会が連携する学習支援ボランティアの協力も得て、子供たちが安心して学んだり心を落ち着けたりできる空間をつくる。
- ③意欲が高まり、達成感が感じられる仕掛けを意図的につくる。
 - なわとびカードやマラソンカードなど、過去（コロナ前）に有効だったものの利用を検討し、児童が成長や達成感を感じられるようにする。
 - 委員会主催の練習会や認定会など、教え合い、認め合う機会を充実させていくことで意欲を引き出していきたい。
- ④「学校いじめ防止基本方針」を見直す。
 - 学校運営協議会で現状や方針についての理解を得られたため、全市での変更点に加え、学校としてはプロアクティブ（先行型生徒指導）に重点を置いたいじめ防止の取り組みを強化する方向で調整していく。
 - ・具体的には、「学級経営（学級づくり）」「人間関係プログラム」「組織の役割の確認」「年間指導計画」を見直しを通して、よりよい人間関係の構築や風通しのよい学級・学年・学校づくりを図る。